

## 4本の柱を意識して、学級の土台作り

加印学力研 いろえんぴつ 井上 佳和

### 学級の土台作り

私は、4本の柱を意識して学級づくりをしています。

- ①ルール・規律づくり
- ②関係づくり
- ③意欲づくり
- ④授業づくり

### ルール・規律づくり

集団にルールや枠があることで、子どもたちは安心して自分らしさを発揮します。学級のルールを教師が示し、子どもたちがそれを守ることがスタートです。後の学期になってから、ルールの是非やルールの範囲を子どもたちに考えさせることで、自主的・自治的活動になっていきます。逆にルールがあやふやなままで、後で厳しくすることは危険です。子どもたちに不満がたまり、教師との関係も悪化します。

4月は、当番などのシステムを明確にすることに加え、「聞く」「姿勢」「くつ箱にくつを丁寧に入れる」を重視します。当り前のことを当たり前にすることを徹底します。

4月の子どもたちは、前のクラスのルールで行おうとします。また、担任の力量を測ろうとして、自分たちに有利になるように主張します。どうしてもルールが曖昧になりがちです。それを防ぐために、担任が「このクラスのルール」を明示します。曖昧になりそうなときは、その場で決定し、全員に示し、共通理解していきます。お勧めの方法は、黒板の端に決まったルールを書くことです。これで、その場の約束で終わらないしっかりとしたルールになります。守れるようになったら消していきます。

### 関係作り

関係づくりは、①「子ども同士の関係づ

くり」と、②「教師と子どもとの関係づくり」があります。

「子ども同士の関係づくり」は、4月のうちに男女関係や今までの友だち関係乗り越えさせ、新しい関係づくりのきっかけを作る必要があります。この時期を逃すと、後々、学級経営や授業に大きな影響が出てきます。まずは、「だれとでも、ある程度話せる関係」を目指します。

「子ども同士の関係」を作るための第一歩は、ひたすらへアで活動させることです。1時間に5回開かせると、一日25回です。それが、10日もあれば250回です。次の席替えまでに、新しい関係が出来上がっています。私は隣同士でハイタッチをしてから話し合いをさせます。話し合いの終了も拍手とハイタッチです。6年生でも、隣が異性でもします。初めは恥ずかしがりますが、ここを乗り越えると男女が仲良くなります。ポイントは授業中での関わりであることです。休み時間の自発的な関係づくりはどうしても、スクールカーストやグループの固定が強固になります。授業でならその壁を乗り越えることができます。

次に「教師と子どもの関係づくり」です。

「子どもの伸びる要因」のうち30%が「学び手と教え手の関係」だそうです。教え方の技術やピグマリオン効果よりも高いそうです。担任は、厳しいだけ、優しいだけでは全員から信頼を勝ち取ることはできません。ボスびるようになるためには、毅然とした少し離れた距離と、安心できる近い距離を持たなくてはなりません。私はルールに厳しいタイプの教師ですので、意識的に子どもたちに関わって行きます。

「教師と子どもの関係づくり」の方法は、決められたルールを徹底することが一つ。もう一つは、毎日全員と関わることです。朝がチャンスです。毎朝、始業までに机間巡視をします。教室に入ってきた児童にどんだん声をかけていきます。さらに、指導の仕方です。指導中に「あなたの考えを聞こう」と言って、子どもに話させます。今まで怒られてばかりの児童は、間違った考え方をしていますが、その子なりの考えをもっています。初めに、聞こうとする態度を示すことで、その子は納得して注意を受けるようになります。

## 意欲作り

意欲とは、「伸びようとする」気持ちです。そのために、昨日の自分よりもたとえ、1ミリ、1秒、1回でも伸びるよう伝え続けます。私は、4月に2つの取り組みを使って意欲づくりをします。

1つ目は、「リズム漢字」です。始業式の日に渡して置き、一度教師が範読しておきます。次の日、少し余裕が出るので連れ読みなどをして読ませていきます。三日目あたりから本格的に、先生と子ども、男女・生活班などで交代読みをして、何度も読んでいきます。すると子どもたちは読むことが楽しくなっています。ある程度読めるようになると、息を吸うことや口形の指導ができ、より上手な音読になり子どもたちは自分の伸びを感じてきます。一週間もたてば、暗唱をしてくる児童が出てきます。さらに意欲に火がついていきます。

もう一つは、「100マス計算」です。まず10マス計算から始めます。10マスごとに、10秒で行い、数題行います。次の日は、50マス計算で、その後100マスを行います。記録を必ずとり、伸びを確

かめていきます。スタートの前に必ず、「昨日の自分に勝つ！」とみんなで言うことから

すると、一体感も湧きます。100マス計算を4月にする理由はもう一つあります。それは、学習規律を浸透させるためです。教師の合図で全員が動き、シーンとした中で勉強が行われる経験ができるのも100マスの良さです。

## 授業作り

授業は、それぞれの先生のやり方があるので、自分のスタイルの基礎を徹底するとよいと思います。

私が4月中にするのは、必ず意見を作らせることです。そして、書いたことを発表させることです。

それと、ノートの基本を教えています。日付、題名、目当て、色の使い方などです。子どもによつては、板書をノートに写す必要を感じていない子もいます。板書を書き写すことはあたりまえだということを押さえておきます。

ふり返り、自分の意見などは、時間内は書き続けることを求めます。